

# [政策分野] 産業・経済 1 企業誘致

## 第6次総合計画期間における成果

企業誘致事業では、トヨタ自動車(株)やアマゾン・ジャパン(株)など大手企業をはじめ多くの企業立地が短期間で実現し、高い成果をあげました(図表3-33・34)。改めて交通の結節点という本市の地理的優位性などが明らかとなりました。企業誘致による市内への経済波及効果は年間約150億円と試

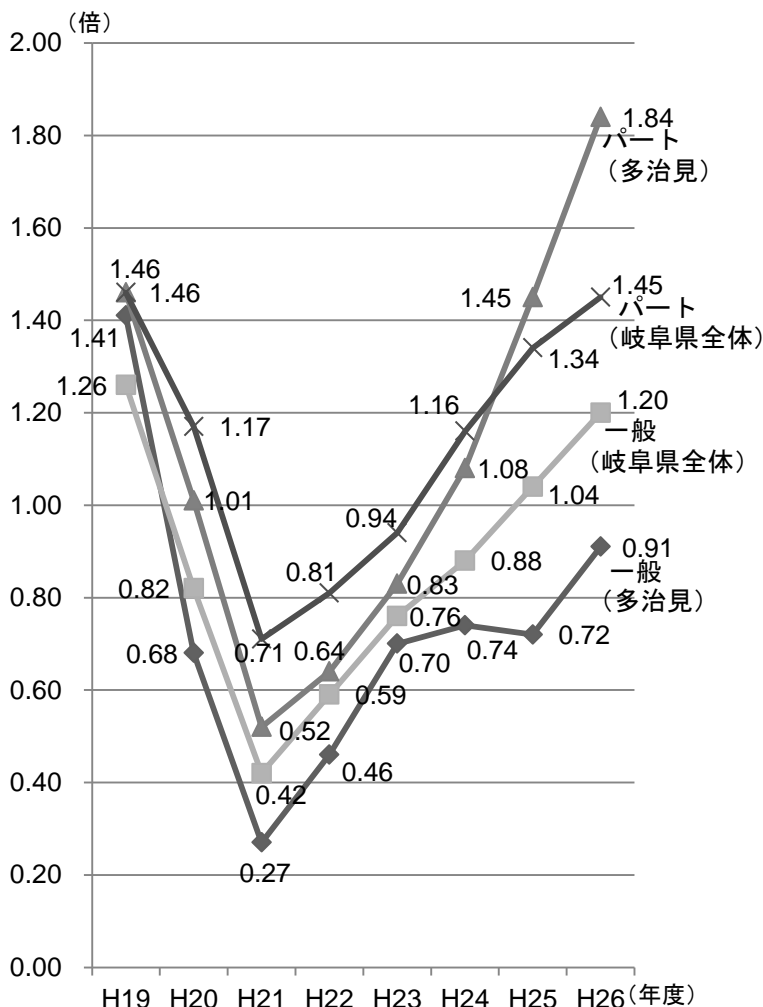
算され、雇用の拡大(有効求人倍率の改善)、地域資源の積極活用及び地域貢献活動など、市内を中心とした経済的波及に効果を上げてきました(図表3-35・36)。また、固定資産税や法人市民税の増収により近年減少傾向であった市税収入の下げ止まりに効果が現れています(図表3-37)。

図表3-33 多治見市内への企業立地件数の推移 (件)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
件数	2	1	0	0	7	4	1	2

※市の企業誘致活動による立地件数(増設含む)

図表3-35 有効求人倍率の推移

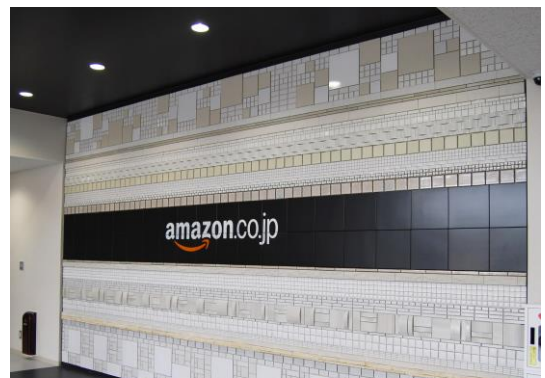


出典：岐阜労働局「労働マトリックス」  
※H26は4月～12月の間の平均値

図表3-34 企業誘致事業による進出企業等

年度	進出企業名(増設含む)
平成19年度	水谷産業(株)
	三光化成(株)
平成20年度	明和工業(株)[増設]
平成23年度	トヨタ自動車(株)
	トヨタ紡織(株)
	水谷産業(株)[増設]
	三光化成(株)[増設]
	(株)八洲
	日本通運(株)
アマゾン・ジャパン・ロジスティクス(株)	
平成24年度	関西触媒化学(株)[増設]
	(株)セントラル・バッテリー・マテリアルズ
	(株)新日本工業
	(株)水谷鉄工所
平成25年度	ペットライン(株)[増設]
平成26年度	水谷産業(株)[増設]
	トヨタ自動車(株)[増設]

図表3-36 進出企業の地元資源活用例



地元タイルでデザインされたエントランス  
(アマゾン・ジャパン多治見FC(物流センター))

## 第7次総合計画策定に向けた課題

### ① 企業誘致と地域経済への波及効果

多くの企業の立地が実現し、雇用の拡大や税収増に一定の効果が得られていますが、これらの効果を継続させ、更に向上させるために、「雇用の確保」「税収増」及び「地域経済への波及」について、今まで以上に意識し事業を進める必要があります。どのような企業の誘致が効果的か、経済波及効果の高い企業に進出していただくためのまちづくりとはどのようなものかについて討

議課題とします（図表 3-38）。

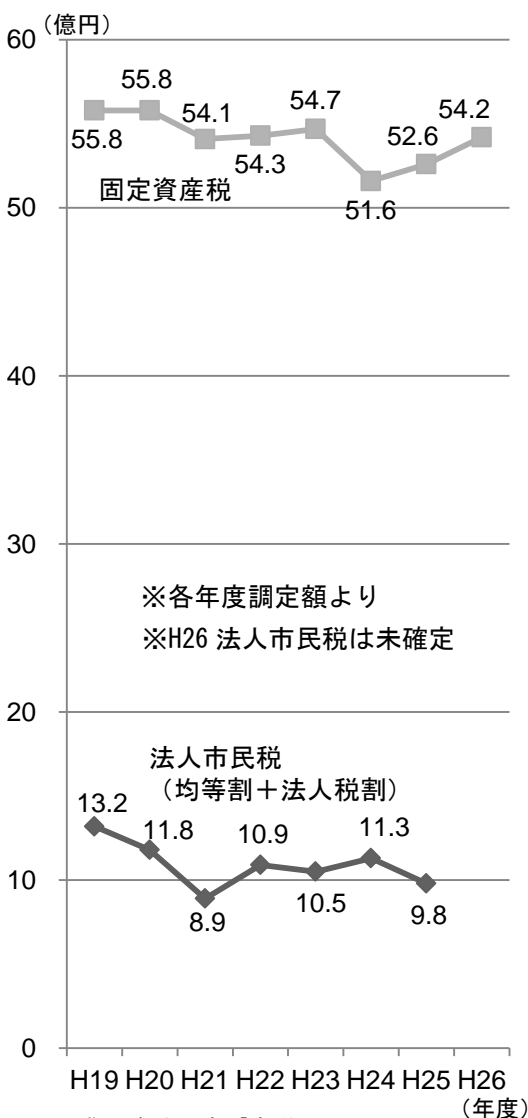
### ② 既存企業の域外流出防止

人口減少の進展が与える地域経済への影響などが危惧される中、市内既存企業の域外流出を防ぐための取組について討議課題とします。<sup>新</sup>

### ③ 企業誘致事業の継続性

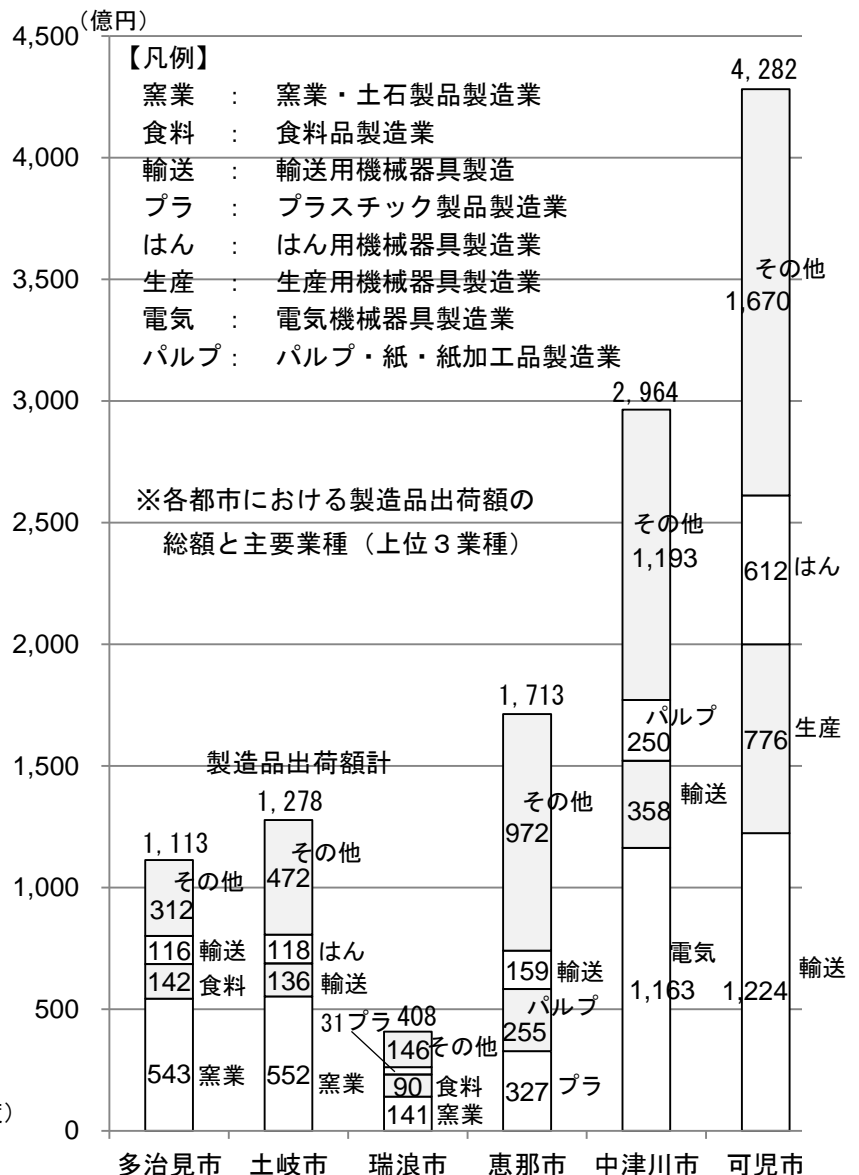
継続的な企業誘致が求められる中、開発可能な土地は限界に近づいており、多様な誘致活動のあり方を討議課題とします。<sup>新</sup>

図表 3-37 市税収入の推移



出典：多治見市「市税のすがた」

図表 3-38 製造業製造品出荷額の近隣都市比較（平成 24 年）



出典：経済産業省「工業統計調査」

## [政策分野] 産業・経済

## 2 市内産業・雇用

### 第6次総合計画期間における成果

起業支援センターを通じた起業家・地元中小企業の支援や、「き」業展などの取組は地元密着型の事業として高い評価を得ており、企業間交流の活発化と地元経済の活性化に貢献しています。

にぎわい創出のための中心市街地活性化に向けた支援では、商店街組織の活性化や空き店舗を活用した新たな事業展開が行われるなど、様々な取り組みが続けられています（図表 3-39）。

図表 3-39 うつわとごはん カフェ温土



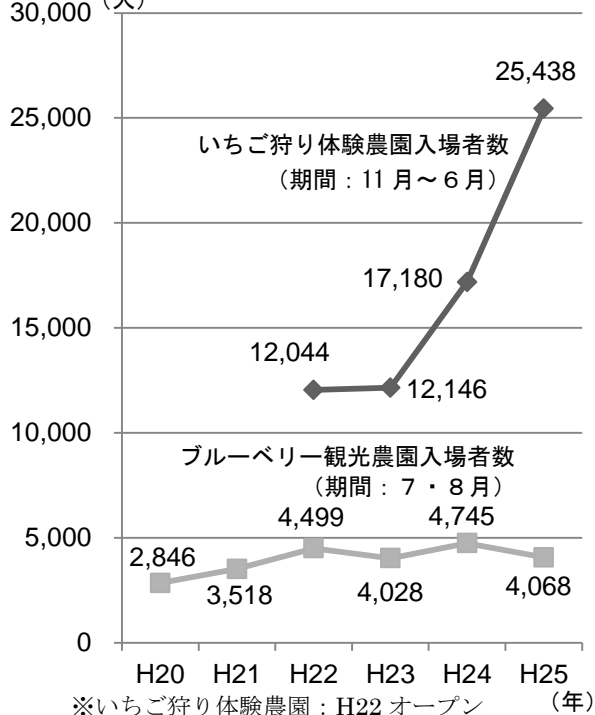
※多治見まちづくり(株)が運営する陶芸ができるお店

農業分野における取組では、「駅北ファーム」のオープンにより地産地消と担い手の育成に効果が現れはじめています（図表 3-40）。また、甘原地区の観光農園は、名古屋圏における認知度が向上し、入場者数が増加傾向にあり、集客スポットとしての役割も担っています（図表 3-41）。栽培面積の拡大や農産物加工品開発を行うなど、積極的な取組が行われています。

図表 3-40 たじみ農産物直売所「駅北ファーム」



図表 3-41 甘原地区観光農園入場者数推移 (人)



図表 3-42 起業支援センター卒業企業一覧

No.	事業所名
1	NPO法人東濃情報ネットワーク
2	(有) トーラスシステム
3	(株) コアテクニカルバンク (事業停止)
4	(株) オフィス・コトノハ
5	日本の旅ドットコム
6	伊藤技術士事務所
7	(有) あすかケアサポート (事業停止)
8	合同会社スガウェーブ (H24～ 事業縮小)
9	オリベ司法書士事務所
10	特許事務所パテントヘルプデスク
11	株式会社エムスタイル
12	合同会社キャトカム
13	株式会社ジフロ
14	水野・森本法律事務所
15	ケアプランつむぎ (合同会社つむぎ)
16	中小企業診断士事務所「オフィス・インサイドアウト」
17	(株)快GO TOKAI ケアプランセンター住ま居る
18	カロツェリア・カワイ(株)
19	TEXT LABO

※平成 27 年 3 月現在

## 第7次総合計画策定に向けた課題

### ① 中小企業振興、起業支援及び雇用促進

市内既存事業所が抱える様々な課題に対する相談・支援体制の充実や、起業支援及び起業者の定着化にはどのような取組が有効的か討議課題とします<sup>新</sup> (図表 3-42)。また、市内産業の担い手確保策としての地元雇用の促進や、女性や高齢者が働きやすく、働き続けられる魅力ある職場づくりなど、女性の雇用創出を含めた雇用対策について討議課題とします<sup>新</sup>。

### ② 集約・再生型まちづくりにおける商店街の役割の確認

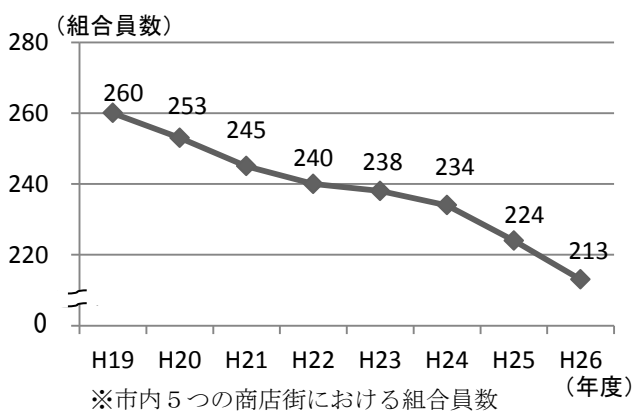
中心市街地における商店街では、高齢化や後継者問題などにより空き店舗が増加し空洞化が進んでいます (図表 3-43)。集約・

再生型のまちづくりの観点から、改めて中心市街地における商店街に求められていることや、支援のあり方について討議課題とします<sup>新</sup>。

### ③ 農業施策と新たな取組

本市では専業農家が少なく、農業生産高は低い水準にあります。都市型農業により市街地での野菜生産が活発に行われていますが、都市化の進展による農地の減少に加え、高齢化や後継者問題により農業従事者は減少する一方です (図表 3-44)。まちぐるみで地産地消を進め、農業、農産物への関心をいかに高めるかについて討議課題とします。

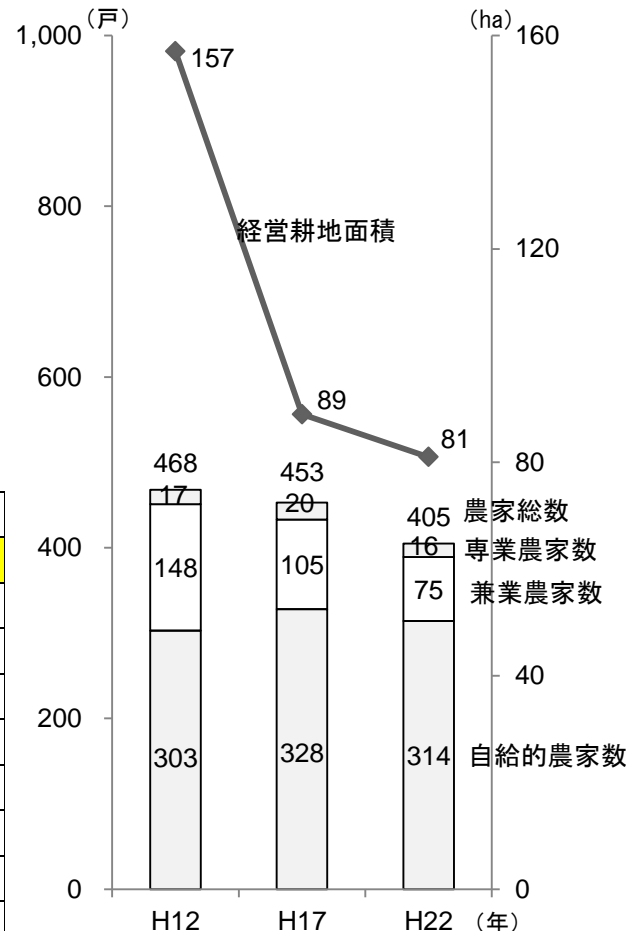
図表 3-43 商店街振興組合員数の推移



#### ●他市比較 (平成 22 年)

	経営耕地面積	農家数
多治見市	81ha	405 戸
土岐市	70ha	561 戸
瑞浪市	358ha	1,399 戸
恵那市	2,230ha	4,099 戸
中津川市	2,281ha	5,637 戸
可児市	526ha	1,829 戸
岐阜市	3,158ha	6,749 戸
大垣市	2,428ha	3,654 戸
各務原市	612ha	2,140 戸
岐阜県全体	40,356ha	70,743 戸

図表 3-44 経営耕地面積及び農家数の推移



出典：農林水産省「(世界)農林業センサス」



# [政策分野] 産業・経済 3 地場産業

## 第6次総合計画期間における成果

地場産業である美濃焼<sup>※1</sup>の振興策として国内外の展示会等出展支援や、新規市場開拓支援を行うことにより、海外展開・販路拡大に向けた動きが出てきました。

また、国際陶磁器フェスティバル美濃'14の開催は、世界に向けた美濃焼の情報発信に貢献しました。

地場産業の将来的課題への対策を講じるため、本市の発議による美濃焼産地の関係

者で構成される「美濃焼みらい会議」の発足や、美濃焼のブランド構築に向けた「美濃焼ブランディング研究会」の活動の活発化など、新たな動きが出てきました。

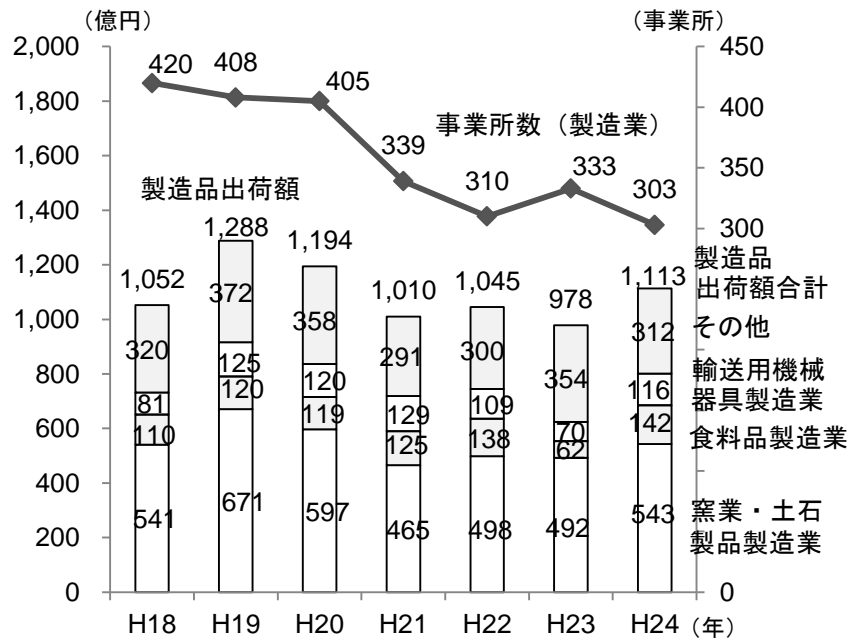
多治見市陶磁器意匠研究所では、地場産業の担い手となる人財育成や高付加価値化製品開発、安全対策面における公設試験研究機関として、重要な役割を担っています（図表3-45）。

※1：主に東濃地域で生産されるやきものの総称（タイルを含む）

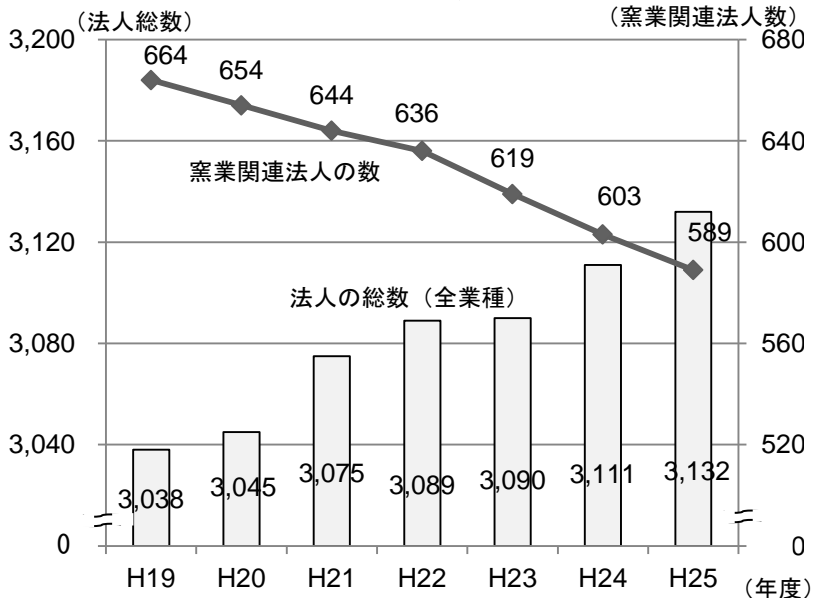
図表3-45 陶磁器意匠研究所 卒業制作展



図表3-46 製造品出荷額及び事業所数（製造業）の推移



図表3-47 法人市民税からみた窯業関連法人数の推移



●他市比較（平成24年）

	製造品出荷額
多治見市	1,113 億円
土岐市	1,278 億円
瑞浪市	408 億円
恵那市	1,713 億円
中津川市	2,964 億円
可児市	4,282 億円
岐阜市	2,552 億円
大垣市	5,125 億円
各務原市	6,707 億円
岐阜県全体	50,082 億円

出典：経済産業省「工業統計調査」  
 ※H23のみ総務省「経済センサス活動調査」  
 ※従業者規模4人以上の事業所

## 第7次総合計画策定に向けた課題

### ① 地場産業の振興と支援

美濃焼は、全国一の生産量を誇る長い歴史と文化に裏付けられた地場産業です。近年、国内需要の低迷や、低廉な海外製品の流入により産業規模が縮小しています。事業者の高齢化や後継者問題などによる事業所数の減少や、窯業原料の確保難など、今後直面する様々な問題が山積しており、地場産業として転換期を迎えています（図表3-46・47・48）。美濃焼を地場産業として維持・発展させていくため、新たに発足した「美濃焼みらい会議」を中心に、産地共通の課題として広域連携のもとに長期展望に

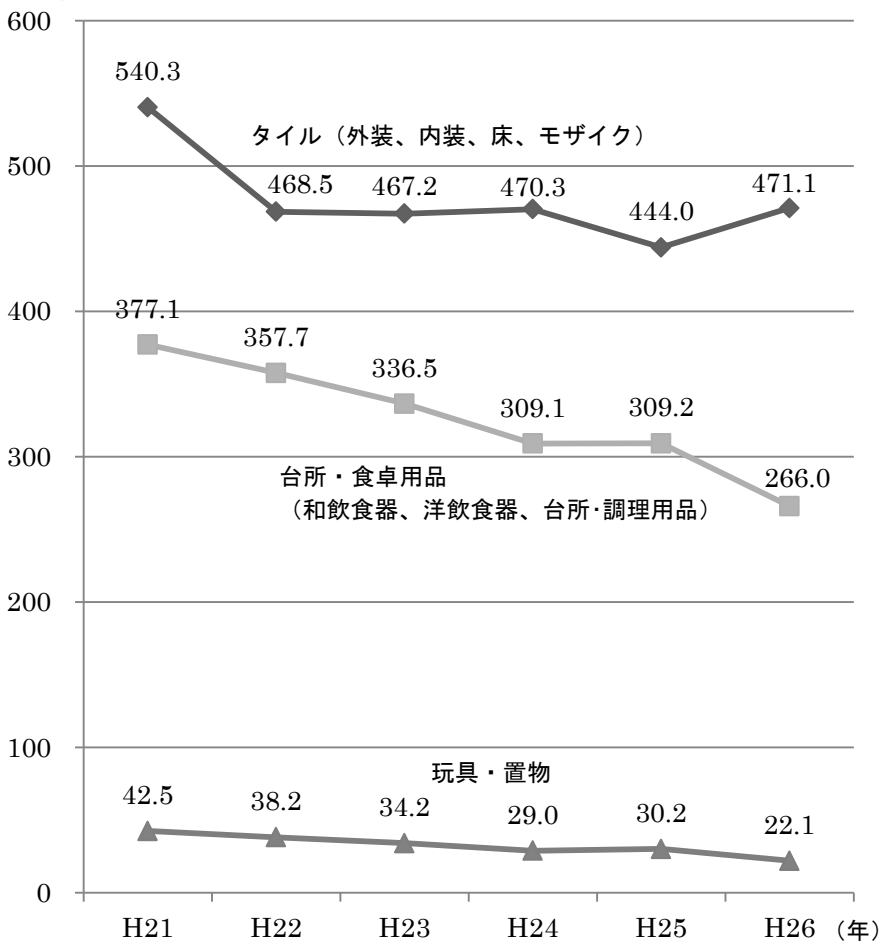
立った対策を検討する必要があります。この検討経過などを踏まえ、有効的な対策とはどのようなものか討議課題とします。

### ② 美濃焼ブランドの構築と普及促進

「美濃焼ブランディング研究会」における美濃焼のブランド構築に向けた活動について、本市としてどのように関わり支援するかを討議課題とします。

また、平成26年8月に施行した「多治見市美濃焼を使おう条例」の理念にもとづく美濃焼の普及促進とはどのようなものか討議課題とします（図表3-49）。

図表3-48 全国陶磁器生産実績（主要品目）の推移  
（億円）



出典：一般財団法人日本陶業連盟「全国陶磁器生産実績」

図表3-49 PRのぼり旗



# [政策分野] 産業・経済 4 観光

## 第6次総合計画期間における成果

地場産業の発信事業として新たに始まった「美濃焼祭」が回を重ねるごとに定着化してきました。また、“陶器まつり”などの伝統的なイベントについては、陶産地のまちの魅力向上と、歴史、文化の継承の観点から継続的な支援を実施しています。

東海エリアで高い知名度を誇る本市のマスコットキャラクター“うながっば”の積極的な出演によるまちのPRや、観光ボランティアガイドによる観光案内は、日帰り

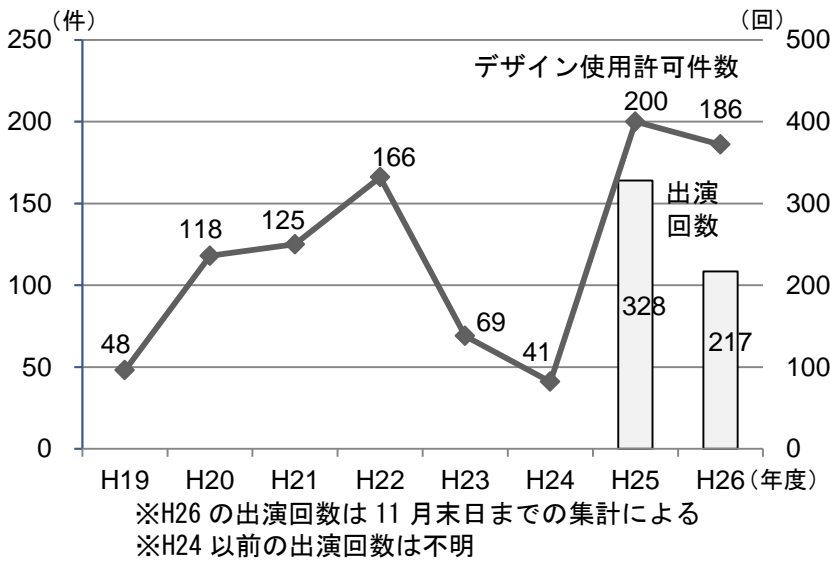
観光客の誘客に貢献しており、観光プロモーションやフィルムエンジン<sup>※1</sup>の活動との相乗効果により、既存の観光施設や陶産地の魅力の発信に効果を発揮しています（図表3-50・51・52・53）。

また、着地型観光<sup>※2</sup>プログラム“美濃焼こみち”が東濃3市の連携事業として始まるなど、新たな取組が始まっています。

※1：映画・ドラマ・CM撮影を支援する組織

※2：現地集合、現地解散する地域密着型の観光形態

図表 3-50 うながっばの活動等の実績



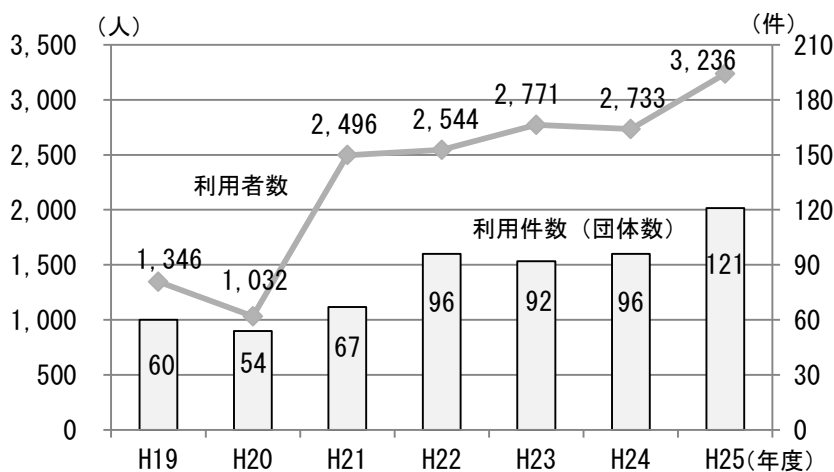
図表 3-51

期間限定ショップ「うながっば特集」



期間：平成25年8月7日～20日  
(ジェイアール名古屋高島屋8階)

図表 3-52 観光ボランティアガイドの活動状況



図表 3-53 「虎溪山 永保寺」



毎年、多くの観光客が訪れています

## 第7次総合計画策定に向けた課題

### ① 観光誘客に向けた環境整備

本市における観光客数は近年減少傾向にあるため、観光客（交流人口）の増加に向けた旅行目的地としての魅力向上にはどのような取組が必要かについて討議課題とします（図表 3-54・55）。また、観光客の多様なニーズに応えるためには、面的な観光地の形成が必要であり、近隣自治体との連携の方法について討議課題とします。<sup>新</sup>

### ② にぎわいの創出

新たなにぎわいを創出するため、土岐川河川敷をはじめとする様々な資源や人財の活用の方法について討議課題とします。<sup>新</sup>

### ③ 外国人観光客の受け入れ態勢

近年、国内における外国人観光客が増加し、今後さらに増えることが見込まれてい

るため、外国人観光客の受け入れ態勢について討議課題とします。<sup>新</sup>

### ④ まちの魅力の継続発信

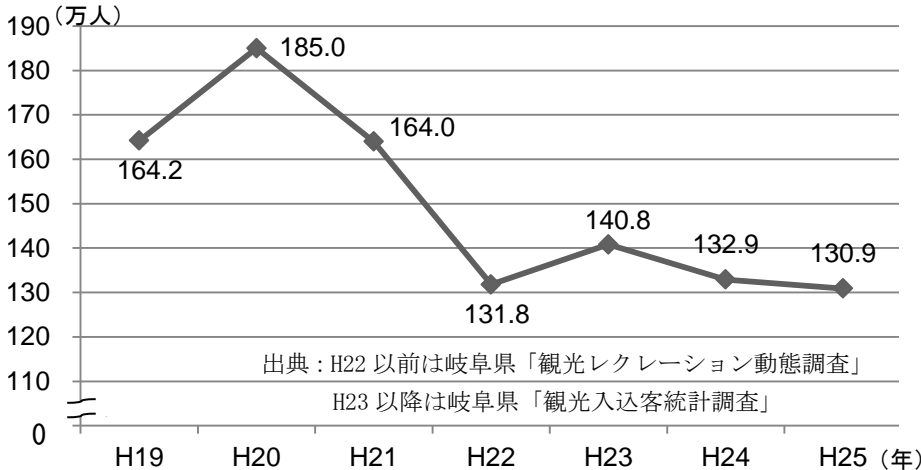
観光客の増加を図るため、「美濃焼」や既存観光施設など“本物”をキーワードにした情報発信を継続的に実施する必要があります。効果的なプロモーションの方法について討議課題とします。<sup>新</sup>

### ⑤ 観光に関する方針づくり

多治見に多くの方が訪れ、楽しんでいただき、また、経済効果も望めるようにするにはどうしたら良いかについて、市民や関係者との情報共有が不十分なところがあります。共有できる情報を洗い出し、実行する体制をいかに構築するかについて討議課題とします。<sup>新</sup>



図表 3-54 多治見市の年間観光客数推移



●他市比較（平成 25 年）

	年間観光客数
多治見市	130.9 万人
土岐市	761.0 万人
瑞浪市	143.3 万人
恵那市	398.8 万人
中津川市	388.1 万人
可児市	264.8 万人
岐阜市	764.6 万人
大垣市	272.0 万人
各務原市	619.9 万人
岐阜県全体	7,675.2 万人

図表 3-55 市内主要観光施設における観光客数の推移

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
岐阜県現代陶芸美術館	27,298 人	14,774 人	18,232 人
かさはら潮見の森公園	32,074 人	31,346 人	31,478 人
市之倉さかづき美術館	15,857 人	16,235 人	15,639 人
たじみ創造館	235,699 人	242,380 人	201,710 人
虎溪山永保寺	82,484 人	71,240 人	27,815 人
セラミックパークMINO	402,630 人	277,975 人	266,235 人
合計	796,042 人	653,950 人	561,109 人